

NEWS LETTER

2012/11/15*

72

銀座街づくり会議

〒104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

PHONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

- このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●
- 本誌の内容を、許可なく無断で複写・複製および転用・転載することを禁じます●

この秋、銀座で二つの催事がありました。ひとつめはGINZA International Week。もうひとつは毎年恒例のオータム銀座です。銀座街づくり会議では、GINZA International Weekには新富座子ども歌舞伎公演を、

オータム銀座では銀座フォトイベントとして、写真家の齋藤利江さんをお招きし、シンポジウムを開催しました。

GINZA International Week

新富座子ども歌舞伎

銀座街づくり会議では、GINZA International Weekの期間に新富座子ども歌舞伎公演を開催いたしました。来春竣工を迎える歌舞伎座を中心として、木挽町を特徴づける和の文化が再び活気づき、銀座の観光資源として発展し、銀座の活性化に繋がることを願い企画したものです。

当日は一、二部合わせて約660名のお客様がみえました。アメリカ、フランス、コロンビアやクロアチアなど世界各国のお客様が、子どもたちの演じるかわいらしい歌舞伎を楽しんでくださいました。

新富座子ども歌舞伎の発足は2007年ですが、泰明小学校の校庭に舞台を組むのは初めてのことでした。出演する新富座子ども歌舞伎の子どもたちは21名。公演前でも緊張する様子はなく元気に走り、舞台上に上がれば役者になり、大変素晴らしい演技を見せてくださいました。第一部には特別ゲストとして歌舞伎俳優の中村福助丈が駆けつけてくださいました。激励のお言葉に加え、子どもたちへ歌舞伎のレクチャーをしていただくなど、とても気さくに接してくださいました。素晴らしいゲストに子どもたちも大感激でした。

今回の公演を通じ、新富座子ども歌舞伎、泰明小学校を初め、多くの方々と非常に良い関係を築くことができました。貴重なご縁をもとに、今後も銀座の和の文化を盛り上げていきたいところです。



オータム銀座2012

銀座街づくり会議シンポジウム

「被写体としての〈銀座〉」

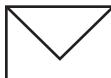


「銀座フォト」は来年から毎年秋に一ヶ月間、銀座の街全体を美術館と見立て、銀座に数多くあるギャラリー や写真サロンにて写真展やシンポジウムを開催して写真の魅力や多様性を伝えるために発足しました。今回のシンポジウムはそのイベントとして写真家の齋藤利江さんをお招きしました。聞き役は東京画廊の山本豊津さんです。これからは写真が眞実を映すのではなく、写真に映っていることが眞実になる時代だといいます。齋藤さんの写真の一枚一枚に、かつての銀座の眞実が映りこんでいました。

齋藤さんは織維の街、桐生市で生まれ育ち、高校生のころから、東京八重洲口に向かうバスに乗って銀座に通い、銀座の写真を撮り続けました。当時銀座は最先端の街で、自動車、外国人、夜のネオンなど、目に映るものすべてがモダンで魅力的、まるで映画を観ているようだったと齋藤さんは語ります。そのころのカメラのフィルムはとても高価で、被写体を見つけた瞬間、シャッターを押す瞬間、そして家で現像するまでのドキドキした気持ちちは、現代では感じられないものだといいます。思い描いたように撮れていなくてがっかりすることも多かったようで、もう一度トライしなくては！という気持ちも銀座に通う原動力のひとつでした。

十代の頃、数々の写真コンテストで賞を受賞された齋藤さんですが、お父様のご病気により、写真の道を断念します。撮りためたフィルムもお父様に捨てられてしまったと思っていました。60歳の誕生日の日、お父様の遺品の中からかつて撮りためたフィルムが偶然見つかり、そこから齋藤さんは写真家として再出発します。現在は全国各地で写真展を開催するなど精力的に活動されています。

銀座は若い街ではなく成熟した魅力がある街です。これからも写真に撮られて美しい、画になる街になっていかなくてはならないと進行役の竹沢えり子は締めくくりました。



このNEWS LETTERはメール配信もしております。メール配信をご希望の方は、下記までお知らせください。
» info@ginza-machidukuri.jp